

平成22年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
最終日：平成22年6月6日(日)
会場：岐阜メモリアルセンターで愛ドーム

男子の部

<審判>

決勝リーグ 美濃加茂 89 $\left[\begin{array}{r} 29 - 16 \\ 20 - 12 \\ 26 - 6 \\ 14 - 8 \end{array} \right] 42$ 岐阜総合 室谷伸治・菅野 浩
(2勝) (2敗)

美濃加茂はハーフコート3-2ゾーン、岐阜総合はハーフコートマンツーマンでスタート。美濃加茂はインサイドの 范を起点に 小園井がレイアップシュート、ミドルシュートを次々に決める。岐阜総合も 小西のミドルシュートで応戦するが、相手のゾーンディフェンスに阻まれて得点が伸びない。第1ピリオドは美濃加茂が29-16とリードする。

第2ピリオド、美濃加茂は 小園井のインサイドへの合わせ、ミドルシュート、 中村の3点シュートなどで着実に加点していく。岐阜総合も 稲葉の3点シュートが決まるが点差は縮まらない。前半は美濃加茂が49-28とリードして終了した。

第3ピリオド、美濃加茂は交替メンバーがオールコートマンツーマンディフェンスで厳しくプレッシャーをかけ、相手のミス誘い、速攻から次々にシュートを決め、 赤土がリバウンドからのゴール下シュートでさらに点差を広げていく。岐阜総合は相手の高さのあるディフェンスに抑えられ、6分間ノーゴールが続く。

第4ピリオドに入っても、美濃加茂はディフェンスの手を緩めず、 国本がリバウンドを頑張り、 田口、 横山らが得点をあげ、89-42で勝利し、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合もドライブインからシュートを狙うが、高さ、力強さのあるディフェンスに抑えられ、点差を縮められなかった。(瀬川 雄一郎)

決勝リーグ 富田 85 $\left[\begin{array}{r} 20 - 16 \\ 10 - 17 \\ 27 - 19 \\ 28 - 30 \end{array} \right] 82$ 中津川工 相宮俊郎・名越龍男
(2勝) (2敗)

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。富田は 真里谷のリバウンドシュート、 羽田の3点シュートなどで得点をあげれば、中津川工は 森の3本の3点シュート、 今井幹のゴール下シュートで互角の展開に持ち込む。第1ピリオドは富田が20-16とリードする。

第2ピリオドにはいると、富田は相手ディフェンスに苦しみ思うように得点できない。逆に中津川工は粘り強いディフェンスからボールを奪うと、 森のジャンプシュート、 今井貴のドライブ、 今井幹のゴール下シュートなどで逆転に成功。前半を終え中津川工が33-30とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、富田は 羽田の3本の3点シュートや 真里谷の巧みなインサイドプレーなどで得点を重ね、再逆転に成功する。中津川工も 林、 今井貴のシュートで必死に追い上げるがミスが出て追いつけない。

第4ピリオド、富田は 羽田の2連続の3点シュートや 真里谷のインサイドプレーなどで終始落ち着いたゲーム運びをみせ、相手の必死の反撃をかわし、85-82で逃げ切って決勝リーグ2勝目をあげ、美濃加茂との決戦に向かう。中津川工も最後まで諦めることなく、オフェンス、ディフェンスともよく走り、懸命なプレーを続けたが、あと一步及ばなかった。(鈴木雅雄)

決勝リーグ 美濃加茂 95 $\left[\begin{array}{r} 26 - 10 \\ 16 - 23 \\ 25 - 19 \\ 28 - 20 \end{array} \right] 72$ 富田 増田博徳・棚橋英一
(3勝) (2勝1敗)

決勝リーグ2勝同士で迎えた最終戦、両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。美濃加茂は、出だしから 赤土のインサイドを中心に得点をあげ、一気に流れをつかむ。対する富田はリバウンドが取れず、シュートも決まらない苦しい展開となる。第1ピリオドは、美濃加茂が26-10とリードする。

第2ピリオド、美濃加茂は相手のゾーンディフェンスに苦しむものの、 高橋のゴール下シュートや、 小園井の冷静なゲームコントロールで主導権を譲らない。富田は途中から2-3ゾーンディフェンスが機能し始め、相手のミス誘って速攻に走り、 羽田、 小椋の3点シュートや、 真里谷のドライブなどが決まり、一時は5点差まで追い上げる。前半は美濃加茂が42-33とリードして折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂は 小菌井のパス回しから相手ゾーンディフェンスを崩し、高橋のインサイド、中村の3点シュートで点差を広げていく。富田も 真里谷を中心に 小椋、山田の3点シュートなどで、離されないようにしていく。

第4ピリオドに入っても、美濃加茂の勢いは止まらず、中村、高橋が次々にシュートを決め、勝利を決定づける。最後は高さ、スピードとも勝る美濃加茂が、95-72で相手の追撃を振り切り、4年ぶり2回目の優勝を勝ち取り、全国高校総体への出場権を奪還した。富田も応援の声に後押しされ、最後までよく走ったが、最後は力尽きた。(林 紗規子)

決勝リーグ	岐阜総合 (1勝2敗)	73	$\begin{bmatrix} 30 & - & 11 \\ 21 & - & 7 \\ 7 & - & 22 \\ 15 & - & 18 \end{bmatrix}$	58	中津川工 (3敗)	角平和優・山田祐治
-------	----------------	----	--	----	--------------	-----------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜総合は、鋭い動きのディフェンスからボールを奪うと、山田、稲葉、浅野が次々にシュートを決めて、第1ピリオドは岐阜総合が30-11とリードする。

第2ピリオドに入っても、岐阜総合はディフェンスの足を止めることなく相手にプレッシャーをかけ続け、攻めては浅野のジャンプシュート、稲葉、鳥村の3点シュートなどで、さらに大きくリードを広げる。中津川工は途中ゾーンディフェンスに変え、森のドライブ、瀬織のインサイドプレーで反撃を試みるが、思うように得点できない。前半は岐阜総合が51-18と大量リードを奪って折り返す。

第3ピリオドに入ると状況が逆転する。岐阜総合は大量リードにやや気が緩んだのか、オフェンスが空回りし始める。逆に中津川工はディフェンスをオールコートマンツーマンに変え、積極的にダブルチームを仕掛け、粘り強くボールを奪うと、今井貴、瀬織、石原、森が次々にシュートを決め、次第に追い上げていく。第3ピリオド終了時、岐阜総合が58-40とリードする。

岐阜総合は 小西、浅野が冷静にゲームをコントロールし、ファウルで得たフリースローを着実に決め、相手の反撃を許さない。最後は岐阜総合が73-58とリードを守り切り、決勝リーグ3位となり東海高校総体の出場権を得た。中津川工は激しいディフェンスから速攻に走り、森が第4ピリオドだけで13得点をあげる活躍を見せたが、前半の失点が大きすぎた。(鈴木雅雄)

女子の部

<審判>

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	96	$\begin{bmatrix} 28 & - & 5 \\ 23 & - & 12 \\ 15 & - & 7 \\ 30 & - & 2 \end{bmatrix}$	26	長良 (2敗)	長屋貴・加藤文
-------	--------------	----	---	----	------------	---------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は 杉浦のインサイドを中心にオフェンスを組み立て、杉浦のゴール下シュート、東方のジャンプシュート、佐々木のゴール下シュートで次々に得点をあげる。長良もディフェンスの裏を狙うプレーから 大野のシュートで得点するが、相手ディフェンスを攻めきれない。第1ピリオドは岐阜女子が28-5と大きくリードする。

第2ピリオド、岐阜女子はベンチメンバーが出場し、激しいディフェンスから相手のミスを誘い速攻に走って、森澤のゴール下シュート、野原のシュート、神山の3点シュートで得点をあげる。前半を終わって、岐阜女子が51-17と主導権を握る。

第3ピリオドに入り、岐阜女子は 神山のジャンプシュート、近田のゴール下シュートで得点する。長良も 大野、吉田のシュートで追い上げを図るが、得点が伸びない。

第4ピリオド、岐阜女子はディフェンスを緩めず、オールコートマンツーマンで激しく守るなどして、中西の3点シュート、水野のシュートなどでさらに得点を伸ばした。岐阜女子がチーム力の差をみせて、96-26で勝利し、決勝リーグ2勝目をあげた。長良も全員が力を発揮しよく攻めたが、スピード、ディフェンスなどが及ばなかった(吉福 司)

決勝リーグ	岐阜商 (2勝)	67	$\begin{bmatrix} 11 & - & 13 \\ 21 & - & 14 \\ 13 & - & 9 \\ 22 & - & 10 \end{bmatrix}$	46	高山西 (2敗)	小牧秀則・清水潤
-------	-------------	----	---	----	-------------	----------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。互いに相手のディフェンスを崩すことができず、ロースコアの展開となる。岐阜卓商が 山田の3点シュート、吉野のリバウンドシュート、高山西は片山のスティールからの速攻などで互角の展開となる。第1ピリオドは高山西が13-11と一歩リードする。

第2ピリオドに入ると、両チームともオールコートマンツーマンに変えプレッシャーをかける。ここから岐阜卓商は 松尾が4連続3点シュートを含む14得点の活躍を見せ、一気にリードを奪う。高山西も 片山、田口の3点シュートで食い下がる。前半を終え、岐阜卓商が32-27とリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜卓商は力強いディフェンスとリバウンドでゲームの主導権を握り、吉野、土屋の3点シュートなどでリズムよく加点していく。高山西も 片山、岩畑の頑張りで追い上げを図るが追い上げきれない。

第4ピリオドに入ると、岐阜卓商は終始リバウンドを制し、吉野、松尾の3点シュートや、池田、清水のジャンプシュートで次第に点差を広げた。最後は岐阜卓商が67-46で勝ち、決勝リーグ2勝目をあげた。高山西もオールコートマンツーマンでダブルチームを仕掛け、積極的に攻めたが、得点に結びつけることができなかった。(林 義貴)

決勝リーグ	岐阜女子	77	$\begin{bmatrix} 19 & - & 9 \\ 16 & - & 11 \\ 26 & - & 13 \\ 16 & - & 17 \end{bmatrix}$	50	岐阜卓商	松野瑞穂・廣瀬卓哉
	(3勝)				(2勝1敗)	

互いにハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は 杉浦のゴール下シュート、東方のドライブを中心に得点をあげる。岐阜卓商もインサイドを攻め、吉野、清水がゴール下シュートを決めるが、相手ディフェンスのプレッシャーからミスが出る。第1ピリオドは岐阜女子が19-9とリードする。

第2ピリオド、岐阜女子はドライブでファウルを得て、フリースローを着実に決め、佐々木、鐘ヶ江のシュートも決まる。岐阜卓商も速いパス回しから 吉野の3点シュート、清水、松尾のジャンプシュートで追い上げを見せる。前半を終わって、岐阜女子が35-20とリードする。

第3ピリオドに入っても、岐阜女子は激しいディフェンスからボールを奪って攻撃に転じ、松原の3点シュート、佐々木、杉浦のリバウンドシュートと一気に突き放していく。岐阜卓商もディフェンスを2-1-2ゾーンに変えて流れを取り戻そうとするが、相手のディフェンスを崩すことができない。

第4ピリオド、岐阜女子は 佐々木、鐘ヶ江、松原がシュートを決め相手の追撃を許さない。伝統的なディフェンスの強さやリバウンドの粘りなどを見せ、最後は77-50のスコアで勝利を飾り、17年連続19回目の優勝で全国大会への出場を勝ち取った。岐阜卓商も必死の追い上げを見せ、山田のシュート、下村が3点シュートで反撃するが、第3ピリオドまでの点差を縮めることはできなかった。(吉福 司)

決勝リーグ	長良	78	$\begin{bmatrix} 19 & - & 11 \\ 18 & - & 12 \\ 18 & - & 2 \\ 23 & - & 17 \end{bmatrix}$	42	高山西	大江裕之・古田 怜
	(1勝2敗)				(3敗)	

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。長良は粘り強いディフェンスから、中島のドライブ、田中のリバウンドシュート、大野のミドルシュートなど、全員でリズムよく得点していく。対する高山西は、相手ディフェンスに苦しみ、なかなか攻めることができない。第1ピリオドは、長良が19-11とリードする。

第2ピリオド、長良はインサイドでは 服部、アウトサイドからは 大野とバランスよく攻め、リバウンド、ルーズボールとも積極的に飛びこみ、主導権を譲らない。高山西は 片山、高木が3点シュートを決め、追い上げを図る。前半を終わって、長良が37-23とリードする。

第3ピリオド、長良の勢いは止まらず、チーム全員でディフェンス、リバウンドを頑張り、今尾、服部、大野らが次々に得点をあげていく。高山西も積極的にアウトサイドからシュートを狙うが、なかなか決まらず、このピリオドは2得点に終わる。

最終ピリオド、長良は 大野、服部を軸に得点を伸ばし、若園、市川もシュートを決め、相手の追い上げを許さない。最後まで走り切った長良が、78-42の大差で相手の退け、新人大会に続いて東海大会への出場権を手にした。高山西もオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、高木、柚原がシュートを決めたが、反撃が遅かった。(林 義貴)